

国語学習プリント

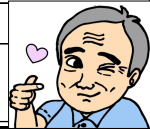
date : 年 月 日

学習内容：状況の中で

挨拶——原爆の写真によせて

氏名

年 組 番



挨拶——原爆の写真によせて

石垣 りん

あ、

この焼けただれた顔は

一九四五年八月六日

その時広島にいた人

二五万の焼けただれのひとつ

すでに此の世にないもの

とはいえ

友よ、

向き合った互の顔を

も一度見直そう

戦火の跡もとどめぬ

すこやかな今日の顔を

すがすがしい朝の顔を

その顔の中に明日の表情をさがすとき
私はりつぜんとするのだ

地球が原爆を数百個所持して

生と死のきわどい淵を歩くとき

なぜそんなにも安らかに

あなたは美しいのか

しずかに耳を澄ませ

何かが近づいてきはしないか

見きわめなければならぬものは目の前に

えり分けなければならぬものは

手の中にある

午前八時一五分は

毎朝やつてくる

一九四五年八月六日の朝

一瞬にして死んだ二五万人の人すべて

いま在る

あなたの如く私の如く

やすらかに美しく油断していた。

石垣りん 1920～2004 東京都出身 詩人

《背景》

1934年(昭和9年)、14歳の時に日本興業銀行に見習い事務員として就職。以来定年まで勤務し、戦前、戦中、戦後と家族の生活を支えつつ、文芸活動も行っていた。

職場の機関誌にも作品を発表していた経緯もあり、1952年(昭和27年)、アメリカ軍により禁止されていた原爆写真の公開をうけ、8月6日の朝の職場壁新聞欄に掲示する原爆被爆者の写真にそえる詩を頼まれ、著わしたのが「挨拶」という詩である。

〈前日(1952年8月5日)に依頼され書いた〉

日本が戦後復興期にあり、五年後の高度成長期へと向かうところである。

☆背景を理解し、想像しよう。

◎詩の形式

口語自由詩 七連構成

▽一九四五年八月六日とは

広島に原爆が落とされた年月日

▽午前八時一五分とは

広島に原爆が落とされた時間

▽友よとあるが、「友」とは、誰のことを

指すのか

・狭くみると

同じ職場の同僚

・広くみると

読者や現代を生きる人々

▽りつぜん(慄然)の意味

恐ろしさで身のふるえるさま。

ぞっとするさま。

▼この詩のテーマとはなにか、考えよう。

①「挨拶」というタイトルとは

通勤してきた同僚同士が何気ない朝の挨拶をかわす時刻。その時刻にかつて起きた惨劇。わずか七年しかたつてないのに忘れてしまったかのように和やかに「おはよう」と声を掛け合うあなたや私。忘却の中にあつた平穏な日常に対する挨拶。

②筆者が言いたいこと

平和の中に潜む、平和を揺るがすものが隠れているかもしれないこと。そして、それを敏感に感じ取るアンテナを失わないこと。